

1980年代の英国における会計規制改革に関する研究

岡村, 雄輝

<https://doi.org/10.15017/1500486>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	岡村 雄輝			
論文名	1980年代の英国における会計規制改革に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	大石 桂一
	副査	九州大学	教授	大下 丈平
	副査	九州大学	准教授	小津 稚加子

論文審査の結果の要旨

英国では1980年代に実施された一連の会計規制改革の結果、1990年に会計基準審議会（ASB）が創設された。本論文は、このASB体制への移行の背景にはオフ・バランス取引の横行と、それを直接・間接に幫助していたとされる会計プロフェッションの「商業化」があったという事実認識のもと、これら商業化とオフ・バランス取引という2つの問題に対する国家と会計プロフェッションの対応、およびASBの創設に法的後ろ盾を与えた1989年会社法の制定過程の検討を通じて、1980年代の英国における会計規制改革の意義を問い直そうとするものである。

商業化の問題に関しては、それを欧州レベルで規制すべく制定されたEC会社法第8号指令の国内法化を、英国の会計士団体がレトリックを駆使して実質的に阻止したこと、および国家もある程度は商業化を容認していたことを明らかにしている。オフ・バランス取引の問題については、その対応をめぐる会計士の経済的実質論と法律家の法律要件論とが対立していたが、この対立に決着を付けたと目される1989年会社法の制定過程をつぶさに検討した結果、当時の政権与党は会計基準を法律化するのではなく、従来どおり会計プロフェッションに会計基準設定を担わせようとしたことを明らかにしている。その上で、国家と会計士団体との「中間組織」としてASBを創設するために1989年会社法が制定されたという結論を導いている。

本論文の独自性と貢献は、ASB体制への移行の意義について先行研究とは異なる解釈、すなわち「ASB体制への移行は国家と会計プロフェッションとの役割分担の再確認であった」という仮説が成り立つ可能性を提示した上で、その仮説を勅許会計士協会の内部文書や下院議会の議事録などの膨大なアーカイブから自ら発掘した第一次史料をもとに丹念に検証し、仮説を支持する証拠を得た点にある。これまで、1989年会社法の制定過程にまで踏み込んでASB体制確立の意義を検討した研究は皆無であり、本論文は英国会計規制研究に新たな知見をもたらすものとして高く評価できる。

以上の調査結果から、本論文調査会は、岡村雄輝氏より提出された論文「1980年代の英国における会計規制改革に関する研究」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。